

正課での産官学連携によるアクティブラーニングを通した 地域や企業との協同活動

—実施大学・指導責任者—
京都光華女子大学短期大学部
ライフデザイン学科 青木正明

★本活動の主旨（取り組んだ課題）

正課での産官学連携によるアクティブラーニングを通して、地域の子どもたちが伝統文化に触れる場の創出および、地域の諸活動を通した新たな地域防犯や地域懇親活動の提案を、大学生が行う

※活動は I.無印良品イオンモールKYOTO店 II.中京区内富有学区 の2か所

I.無印良品イオンモールKYOTO店での「紅花染め体験会」の実施

活動地域：京都市南区西九条鳥居口町 イオンモールKYOTO2階「無印良品」店舗内

★ねらい

子ども連れ家族をターゲットとした伝統的な染め体験「紅花でかわいいピンクを染めよう」を、無印良品様と協同にて大学生が募集・開催し、子どもが伝統技術に親しむ場を構築し、大学生が子どもと共に京都に根付いた伝統文化の歴史に触れる。



★活動内容

- ①10月4日～5月16日にかけて計5回の紅花染めの指導のための反復練習を学生が行う。
- ②5月17日に光華高校生にむけた学内紅花染め体験教室の機会を設け、本番に向けた最終調整を行う。
- ③5月18日（土）無印良品イオンモールKYOTO店内スペースを会場とし、11時～と14時～の2部制にて「紅花でかわいいピンクを染めよう」体験会を実施した。

★成果★

- 参加者：16名（2部制の参加者合算）
 - 参加者満足度：「とても満足した」回答が100%
 - 参加者からの感想：
 - ・学生たちの説明がとても分かりやすかった
 - ・子どもの相手をやさしくして下さりうれしかった 等
 - 学生の考察・反省：
 - ・反復練習の大切さがわかった
 - ・参加者の明るい表情で勇気がわいた 等
- ※指導教員が手伝う場面は一切なかった

II.中京区内富有学区での地域活動行事への参画と新しい活動の提案

活動地域：京都市中京区富有学区内

★ねらい

京都市中京区「富有学区自治連合会」および「富有消防分団」主催・共催による様々な活動（運動会、防災訓練、地域見回り等）へ大学生が参画することで地域の防犯・防災や地域活性化活動を理解し、そこから新たな活動の提案を行う。



★活動内容

- ①10月5日 富有学区自治連合会役員との意見交換会
- ②10月13日 富有学区区民運動会での活動手伝いと競技参加
- ③11月10日 富有学区愛宕山ハイキングでの活動手伝いと参加
- ④11月11日 富有学区内にて地域活動の調査とヒヤリング
- ⑤11月22,23日 国立近代美術館「LOVEファッション」展を学生案内により学区民との鑑賞イベント開催
- ⑥12月1日 富有学区防災訓練へ学生参画

★成果★

- 意見交換をはじめとした各種活動に学生が参画したことで上記⑤のファッション展示会イベントを開催し、地域活動創出ができ、文化的交流の場を設けることができた
 - 地域活動の課題を学生たちが具体的に学ぶことができた
- ※下記、参画した学生による地域活動についての考察を一部抜粋

今回、富有学区の地域活動に参加して感じたことが二つある。
一つ目は、高齢の方の参加人数が多いことだ。運動会という体を動かす活動にもたくさんの方が参加されていた。運動会はどちらかというと若い人が参加しているイメージだったため、とても驚いた。運動会など、体を動かすイベントが地域で行われることで、普段運動しない人でも運動する機会ができて良い取り組みだと思った。お年寄りの参加人数が多いことで、お年寄りの顔を覚えることができ、災害時の救助活動の役に立つこともあるだろうと思った。
二つ目は、地域の方向士の仲が良いということだ。私は地域の方と話す機会があまりなく、イベントに参加することもしてこなかった。そのため、防災訓練や運動会で、性別や年齢問わず地域の方が協力し合っているところを見て、とても感動した。富有学区に住む方々は、地域の方とのつながりを増やすために地域活動を行っているのだと思った。地域活動を行うことで、富有学区に住んでいる方とたくさん会うことができる。そして、地域の方との関わりを増やすことで災害時に救助に行きやすいなどのメリットが生まれる。これらのことから、富有学区に住む方は、地域の方とのつながりを増やすために地域活動を行っていると考えた。そして、普段から運動会などの若い人にも参加しやすい地域活動を行うことで、地域活動に若い人がなかなか参加してくれないという課題を解決することにもつながっていると思う。防災訓練や運動会に参加することで商品がもらえたりするなど、参加することへのメリットを用意しているところに工夫を感じた。

一気づいたこと・今後の課題一

- ・子どもに対してのイベントは、年齢の若い大学生が文化交流指導を行うことで子どもに寄り添う場を設け子供の興味をより効果的に引き出すことが出来たのではないかと考える。
- ・地域活動に関しては、地域の役員とは違う視点で大学生ならではの活動提案をすることができ、地域の防災・防犯活動および安全性を高めるための懇親の場を設けられたと思う。
- ・今後の課題に関しては、今回の活動が単発で終わらぬよう、正課以外での活動に発展できるような活動システムを構築することが必要と感じている。